様式2

都市再生整備計画事業　事後評価シート
旧勝山城下周辺地区

平成26年1月

福井県勝山市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福井県	市町村名	勝山市	地区名	旧勝山城下周辺地区		面積	55ha
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	800百万円	国費率	0.4	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設（勝山駅前広場整備）、高質空間形成施設（勝山駅前歩道整備、回遊性のあるまちなか散策ルート整備）、消雪、舗装整備（市道7-199号線ほか12路線）、公園整備（中央公園、比島公園）
	提案事業	地域創造支援事業（歴史的まちなみ景観創出事業補助、テキ６展示、消雪、舗装整備）、事業活用事業（事業効果分析調査）、まちづくり活動推進事業（まちづくり講演、情報誌発行）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	公園整備（中央公園）	他事業（都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業）で対応したため	まちなか案内客数への関連はあるが、目標値は据え置く。
	提案事業	地域創造支援事業（モニュメント展示（発電機））	設置位置の調整に時間を要したため	まちなか案内客数に関連はあるが、目標値は据え置く。
新たに追加した事業	基幹事業	既存建築物活用事業（勝山駅舎改修、２番ホーム待合所改修）	交通結節点、情報発信拠点として駅舎の活用を図るため	乗降客数、まちなか案内客数に関連はあるが、目標値は据え置く。
	提案事業	地域創造支援事業（テキ６展示施設）	駅前広場のテキ６動態展示計画が具体化し、駅の活性化に繋げるため	乗降客数に関連はあるが、目標値は据え置く。

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成21年度～平成25年度	
	変　更	－	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み あり	1年以内の達成見込み なし	効果発現要因	フォローアップ予定時期
指標1	勝山駅乗降客数(定期外)	人/年	56,000	H20	61,000	H25	－	52,000	×		●	人口減少、経済不況により勝山駅乗降客数は減少傾向であったが、駅周辺や散策ルート整備によって観光拠点が創出され、近年は観光客の増加により横ばいに転じ、事業効果が現れ始めている。	平成26年４月
指標2	まちなか案内客数	人/年	302	H20	600	H25	－	1,400	○	●		駅周辺や散策ルートなどハード整備を行ったことで、観光客を迎え入れる体制が整い、まちなかでのイベント等による誘客や観光案内ボランティアを利用する客の増加に繋がった。	平成26年４月
指標3	景観補助申請数(累計)	件	34	H20	55	H25	－	50	△		●	目標値には至っていないが、制度に対する市民の認知度が高まるとともに、毎年一定の補助申請がみられ、歴史的まちなみ形成が着実に推進しつつある。	平成26年４月
指標4	居住者人口	人/年	1,350	H20	1,350	H25	－	1,230	×		●	全国的な人口減少のなか、居住者人口の維持には至っていないが消雪整備により、特に冬季のまちなかでの住みやすさの向上につながっている。	平成26年４月

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	ゆめおーれ勝山入込数	人/年	105,300	H21			－	112,800			まちなか散策の拠点として機能し、入込客数は増加傾向にあり、まちなかの賑わい創出に一定の効果がみられた。	平成26年４月
その他の数値指標2	まちの駅登録店舗数（累計）	店	38	H20			－	45			登録店舗数は増加傾向にあり、市民のもてなし意識が高まりつつある。	平成26年４月
その他の数値指標3	居住者人口増減率	%	−10.7	H20			－	−6.3			人口は減少し続けているが、減少度合は緩やかとなりつつある。	平成26年４月

4）定性的な効果発現状況

えちぜん鉄道の終着駅であり、コミュニティバスとの結節点である勝山駅の交通機能が高まり、市の新たな観光スポットとして位置付けがされた。
まちなかでの消雪や舗装整備により、雪かきなどの手間が省け、地域住民の冬季の生活の苦労軽減に繋がった。
まちなかの散策ルート整備をはじめとした美しいまちなみ形成に向けた面的整備により、まちなかでのウォーキング姿も見られ、来街者にも安全に景観を楽しみながら散策できる充実度が向上した。
まちなみ形成によって、まちなか商店が連携した「いっちょうら」のスタンプラリーなどの取り組みが展開されるようになった。
市営栄町住宅の整備により、地区西側の玄関口としての景観形成に大きく貢献できた。また、整備された住宅への全戸入居ができたことで新たな居住者の創出につながった。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	特になし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	まちなか整備推進会議の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	まちなか整備推進会議の開催を図るとともに、まちづくり講演会や先進事例などの視察を通して、地元の意見を反映したまちづくりを継続していく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	本町通りまちづくり委員会 下後区まちづくり委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた		両まちづくり委員会ともに、事業等実施に向けて、引き続き協議を進めるほか、関連まちづくりについても、着実に取り組むことを目指す。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

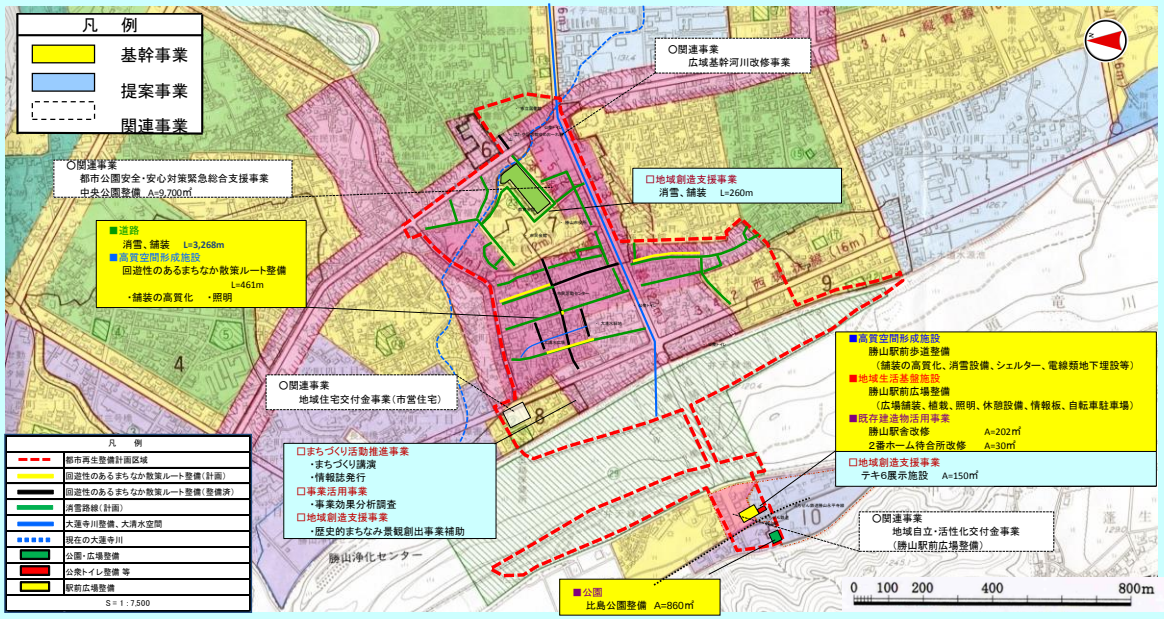
旧勝山城下周辺地区（福井県勝山市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値(H25予測)	
目標 大目標：歴史的まち並みや伝統行事が息づくまちなかを活性化し、にぎわいのある中心市街地の創出 目標１　自然遺産、歴史・文化遺産、産業遺産を活かし、広域的な観光と結びつけ、中心市街地の再生を図る中で、来街者をまちなかに誘導し、にぎわいを創出する。 目標２　歩いて暮らせるまちづくりを推進し、生活文化を活かしたまちなか居住の推進を図る。	勝山駅乗降客数（定期外）	単位：人／年	56,000	H20	61,000	H25	52,000	H25
	まちなか案内客数	単位：人／年	302	H20	600	H25	1,400	H25
	景観補助申請数（累計）	単位：件	34	H20	55	H25	50	H25
	居住者人口	単位：人／年	1,350	H20	1,350	H25	1,230	H25
	ゆめお一れ勝山入込数	単位：人／年	105,300	H21	－	－	112,800	H25
	まちの駅登録店舗数（累計）	単位：店	38	H20	－	－	45	H25
	居住者人口増減率	単位：％	−10.7	H20	－	－	−6.3	H25

消雪整備

回遊性のあるまちなか散策ルート

歴史的まちなみ景観創出事業



勝山駅舎

勝山駅前広場

テキ6展示施設

まちの課題の変化	・まちなか散策ルートの修景整備や勝山駅舎の改修、テキ6展示施設、歴史的まちなみ景観創出事業補助を通じた美しいまちなみ形成によって、日常的に人々が集まる仕掛けが整いつつあり、勝山のまちなかの魅力をより多くの方々に知ってもらい、実際に訪れていただくための情報発信に努めていく必要がある。 ・まちなか散策ルートの修景整備により、散策路ネットワークが構築されたほか、歴史的まちなみ景観創出事業補助などを通じて、散策・交流の動機づけとなる美しいまちなみが面的に形成されつつある中で、来街者に対して、勝山の魅力を案内・発信するための人材育成や商品開発等を推進していく必要があり、市内の観光スポットであり集客力のある恐竜博物館やスキージャム勝山からまちなかへ人を誘導する仕掛け作りを図ることが課題である。 ・勝山駅舎の改修、駅前広場の整備、テキ6展示施設などを整備したことで、勝山市の玄関にふさわしい、歴史性と機能性を兼ね備えた駅前空間が創出されたが、乗降客数を増加させるまでにはまだ至っておらず、交通事業者と協力しながら、中心市街地との繋がりの強化を図っていく必要がある。 ・まちなかの生活道路を中心に消雪装置を面的に整備したことで、冬期でも快適に安心して歩ける道路環境が確保されたほか、市営住宅の整備により、まちなかの居住環境向上に寄与したが、居住者人口の減少に歯止めをかけるまでには至らず、引き続き、まちなかの魅力アップに向けて、定住施策等の事業を推進していく必要がある。 ・勝山駅と中心市街地をつなぐ元禄線では関連事業の広域基幹河川改修事業の早期着手が望まれるなか、地下放水路の事業化の見通しにより南北の散策路をつなぐシンボル的道路としてバリアフリー化も含めて整備していく必要がある。
今後のまちづくりの方策	・歴史的まちなみ景観創出事業を引き続き推進し、まちなかの景観的魅力を高めていくとともに、市民と行政が一体となって、まちづくり意識の向上に努めていく。 ・まちなかを楽しみながら回遊する散策路ネットワークの充実と休憩・交流空間の創出を図り、まちなかへの観光誘客及び滞在時間の拡大に努めていく。 ・ジオパークの要素も取り入れながら、まちなかの景観ポテンシャルを高めて広く発信していくと共に、まちなか案内機能のレベルアップや自発的な市民主体のおもてなしの仕組みを築きあげていく。 ・鉄道で勝山駅に訪れた来街者や市内主要観光地への観光客をまちなかへと誘導するための仕掛けづくりを行うとともに、まちなかの魅力向上に努め、合わせて、公共交通利用促進に向けたソフト面の充実を図っていく。 ・まちなかでの安全、安心な暮らしを支える都市基盤の充実を図るとともに、空き家や空き地を有効に活用して、まちなか居住の魅力を高めていく。 ・元禄線については人々が自然と歩いてみたくなるような道路として、歩道舗装の高質化、シンボル的な街路樹、ライトアップ、バリアフリー化等の整備を進めていく。